

高校生との交流会(オープンキャンパス)

めざせ! 理系女子コーナー

先輩と
話そう

理系への進路を考えている女子高校生、受験生とその保護者を対象に開催しました。女子高校生、受験生はIRISと少人数でのグループトークで、保護者には、運営委員の先生方から、大学生活の様子や研究の内容などについてお話し、質問に答えました。

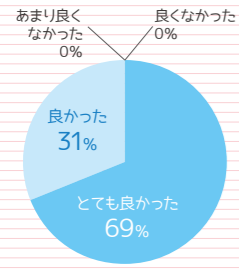


日時 2015年8月8日(土)・9日(日)
会場 大阪府立大学中百舌鳥キャンパス
主催 大阪府立大学女性研究者支援センター
参加者数 のべ77名
IRIS (工)青山、(工)西村、(工)大社、(工)菅原、(工)中島、(工)高田、(工)久間(生)堀内、(生)上平、(生)今西、(生)宇佐美、(生)木下、(理)西川

IRISから 理系を目指す女子高校生との交流を通して、工学の機械系を目指す女子高生生の数の少なさを改めて感じ、リケジョといえば生物系・化学系のイメージであることが裏付けられました。日本ではまだ数少ない機械系出身の女性として、将来は必ず活躍したいという思いが強まりました。----- (工) 青山



参加者アンケート



★大学のことなど、入ってからどう感じるのか教えてもらえて、楽しそうだなとも思いました!
★もともと研究者になりたかったので、いろいろお話できてうれしかったです。
★男子が多い中に入っていけるか不安がありました。色々お話をうかがって、安心した点が大きくなりました。ありがとうございました。
★やっぱり理系は楽しそうなので、理系女子になりたいと思いました。

他事業との連携

IRISのメンバーは、大阪府立大学が関わっている、他のサイエンス・コミュニケーション関連事業へも参加しています。

事業名	連携先	IRIS
女子中高生のための関西科学塾	大阪府立大学 関西科学塾運営事務局 (地域連携研究機構 地域連携室)	(理) 浜田
「未来の博士」育成ラボ	大阪府立大学 地域連携研究機構 地域連携室	(工) 青山、(工) 島田、(工) 吉村、 (工) 松元、(工) 高田、(生) 徳田、 (理) 西川
集まれ!理系女子 女子生徒による科学研究発表交流会	大阪府立大学 清心女子高等学校SSH運営指導委員 田島朋子:生命環境科学研究科准教授	(工) 高田
大阪市 女性の活躍促進「見える化」 情報発信事業	大阪市市民局ダイバーシティ推進室 男女共同参画課	(生) 堀内

IRISから 集まれ!理系女子
-女子生徒による
科学研究発表交流会-

講師の方々の講演では、研究のお話だけではなく、結婚や出産など女性研究者の先輩として非常に貴重なお話を伺うことができ、「女性の生き方」について考える良い機会となりました。また、中高生たちとの交流では、科学に対する熱気に刺激を受けると同時に、若いパワーをもらいました!! ----- (工) 高田

企業研修 企業訪問 | ダイキン工業株式会社

ロールモデル・カフェ
in ダイキン工業株式会社



2001年から女性活躍促進プロジェクトを発足し、意欲・能力のある従業員の仕事と家庭の両立を支援する制度を充実させている、ダイキン工業株式会社を訪問しました。

日時 2015年9月14日(月)
会場 ダイキン工業株式会社 堺製作所 金岡工場
参加者数 学生14名(うちIRIS 7名)
IRIS (工)青山、(工)島田、(工)Nguyen Le An
(工)菅原、(工)高田
(生)今西、(生)宇佐美

IRISから

女性研究者の方々のお話をお聞きして、人生のロールモデルを発見することができました。企業訪問に参加するまでは、漠然としか企業で研究することについて考えていませんでしたが、女性研究者の方々の実際の1日のスケジュールや、仕事のやりがいをお聞きして、「私もこんな先輩みたいに生き生きと働きたい!」と目標となる生き方を見つけることができました。----- (生) 宇佐美



ロールモデル・セミナー

関西電力株式会社(兼IRIS研修会)

関西電力株式会社の事業内容について説明を受けた後、ダイバーシティ担当者や技術系女性社員から講演いただきました。その後、参加者を交えてグループディスカッションを行いました。

日時 2016年2月10日(水)
会場 大阪府立大学中百舌鳥キャンパス
参加者数 9名(うちIRIS2名)
IRIS (工)小崎、(生)今西

* (工) 工学研究科 (生) 生命環境科学研究科 (理) 理学系研究科

アイリス
IRIS活動報告集V



大阪府立大学 女性研究者支援センター 2015年度

IRIS (I am a Researcher In Science) の道は、未来へと続く



女性研究者支援センター長
真嶋 由貴恵
(工学研究科 教授)

本学の女性研究者支援事業は今年度で丸6年が経過し、研究支援員の配置や相談・ロールモデルセミナー・女性研究者交流など、様々な女性研究者支援事業を行っています。

その中で、学内からも地域からもその活躍を期待されているのがIRIS(理系女子大学院生チーム)で、年度初めには堺市をはじめ多くの自治体や子ども会からIRISへの招聘依頼をいただいています。イベントを担当したIRISのメンバーは、実験の企画から準備、実施、反省へと事業のPDCAサイクルを回して、ステップアップしています。毎回イベント終了後には参加者からのご意見をいただくのですが、参加した子どもたちの楽しそう、活き活きとした様子と保護者の方々からの感謝の言葉に、いつも心が温まる思いです。

IRISメンバーがこれまで自分のために歩んできた科学の道は、子どもたちの新しい未来を拓く道へと続いていくと確信しています。

IRISから IRISに参加した動機

*企業訪問など、働く女性研究者と交流したいという思いと、小中高生に科学の面白さを伝える企画に参加してみたいという思いがあったため参加しました。また、所属研究室の先輩がIRISメンバーであったことや、教授からの勧めがあったことも参加した理由のひとつです。----- (工) 菅原

*研究室の先輩が既にIRISとして活動されており、かねてから興味がありました。自分と同じく大学院に進学した女性の方や女性研究者として活躍する方々とお話する機会や、子どもたちと交流する機会があると知り、是非参加したいと思いました。----- (工) 中島

*子どもたち向けの子どものサイエンス・キャンパスなどの企画・実施をしたいと思い、応募を決めました。学部時代に経験した教育実習では、生徒の皆さんに生物や化学の魅力十分に伝えることができず、悔しい思いをしました。子どもサイエンス・キャンパスは学校と違い、授業の枠にとらわれないことがないため、理科の魅力を存分に引き出した実験を行えるのではないかと考えました。また、他分野の大学院生との交流を深めたいという思いもありました。----- (生) 木下

IRISから IRISの活動によって得られたこと

*他の専攻、研究科の大学院生と知り合い、様々な研究テーマや考え方に触れることができ非常に刺激を受けました。また、ロールモデル・カフェなどを通じて「自分を信じて、ポジティブに、アグレッシブに行動すること」の大切さを再認識することができました。----- (工) 米田



*女性研究者支援センター主催のロールモデル・カフェの司会を担当させていただきました。当日までの間、経験者の方にお話を聞いたり、英語での司会挨拶の文言・質疑応答の進め方を思索したり、自分なりに試行錯誤を繰り返しました。そこから反省点や新たな発見が得られとても良い経験となりました。----- (理) 浜田



IRISから 将来の夢

*将来は国際的に活躍する技術者になりたいと考えています。専門である情報工学において高い技術力を身につけるだけでなく、その技術を用いて世界に発信できるようにになりたいです。そのために、研究に力を入れたり、外国人の指導教官と積極的にディスカッションをしたり、留学を経験したりしています。しかし、自分には発信力が足りないと感じることが多くあるため、IRISの活動を通して発信力も磨いていきたいと思います。----- (工) 大社



*日常的に使われている製品の研究開発に携わりたいと考えています。そして、少しでも人の役に立てるような仕事をするとともに、一人の人間として誰かの支えになれたらと思っています。----- (生) 今西



* (工) 工学研究科 (生) 生命環境科学研究科 (理) 理学系研究科



IRIS第5期生(22名)		
工学研究科	専攻	分野
青山 裕子 M2年	航空宇宙・海洋システム工学	海洋システム工学
西村 静恵 M2	電子・数物系	数理工学
小崎 一步 M2		電気情報システム工学
島田 美佳 M2		
吉村 あかね M2	電気・情報系	知能情報工学
Nguyen Le An M2 (グエンレ アン)		
大社 綾乃 M1		
川崎 梓央 M2		
松元 陽子 M2		応用化学
菅原 香純 M1		
中島 佳帆 M1	物質・化学系	
高田 瑤子 D2		化学工学
米田 美佳 D2		
久間 千早希 M1		マテリアル工学
生命環境科学研究科	専攻	分野
堀内 寛子 D2		
上平 智恵 M2		
今西 望愛 M1	応用生命科学	応用生命科学
宇佐美 敦子 M1		
木下 麻美 M1		
徳田 綾也子 D3	緑地環境科学	緑地環境科学
理学系研究科	専攻	分野
浜田 由希 M1	分子科学	分子創製科学
西川 麻裕 D2	生物学	細胞組織工学

*D:博士後期課程、M:博士前期課程

子どもサイエンス・キャンパス

理系で活躍している女子大学院生の存在を知ってもらい、科学の楽しさを伝えるために、子どもサイエンス・キャンパスを開催しました。

★大阪市立男女共同参画センター西部館（クレオ大阪西）

「ペットボトルで空気ほうをつくらう」

日時 2015年8月20日(木)
会場 大阪市立男女共同参画センター西部館(クレオ大阪西)
共催 大阪市立男女共同参画センター西部館(クレオ大阪西)
 大阪府立大学女性研究者支援センター
参加者数 21名
IRIS (工)菅原、(工)高田、(生)徳田



★高石市

「タマネギでハンカチを染めてみよう♪」

日時 2015年9月12日(土)
会場 高石市取石公民館
共催 高石市総務部人権推進課
 大阪府立大学女性研究者支援センター
参加者数 親子12組30名
IRIS (生)今西、(生)木下、(理)西川



★和泉市男女共同参画センター モアいずみ

「空気でスイスイUFO ~ホバークラフト~」

日時 2015年10月17日(土)
会場 和泉市男女共同参画センター
主催 和泉市男女共同参画センター
協賛 大阪府立大学女性研究者支援センター
参加者数 親子15組34名
IRIS (工)島田、(工)Nguyen Le An、(工)久間



★岸和田市立女性センター

「パパと一緒に科学実験 ~スーパーボールとスライムをつくらう~」

日時 2015年10月25日(日)
会場 岸和田市立女性センター
共催 岸和田市立女性センター
 大阪府立大学女性研究者支援センター
参加者数 親子16組36名
IRIS (工)大社、(工)米田、(生)堀内、(生)上平



★河内長野市

「ふしぎな鏡 ~魔鏡~」

日時 2015年11月15日(日)
会場 河内長野市 にぎわいプラザ
共催 河内長野市男女共同参画センター
 大阪府立大学女性研究者支援センター
参加者数 親子23組49名
IRIS (工)西村、(工)松元、(工)米田、(生)宇佐美



★いずみさの女性センター

「できるかな?レモンで電池」

日時 2015年12月5日(土)
会場 泉佐野市立生涯学習センター
共催 いずみさの女性センター
 大阪府立大学女性研究者支援センター
参加者数 9名
IRIS (工)小崎、(工)川崎、(工)中島



★サカイエンス 2016

「芳香剤を作ろう ~水でふくらむ 不思議なプラスチック~」

日時 2016年1月31日(日)
会場 ソフィア堺
主催 堺市教育委員会
後援 大阪府立大学
参加者数 129名
IRIS (工)島田、(工)吉村、(理)浜田



* (工)工学研究科 (生)生命環境科学研究科 (理)理学系研究科

IRISから

* 一生懸命に実験に取り組む子どもたちの姿を見るのがとても楽しく、また、ずっとやってみてきた「子どもたちに科学的面白さを伝える企画」に携わることができ、感動しました。-- (工) 菅原



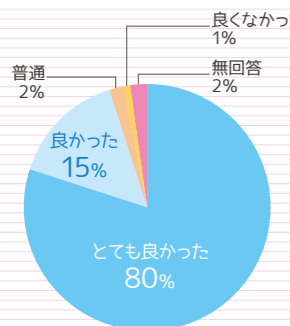
* 実験の手順や原理説明等の資料作りや、実験に真剣かつ楽しそうに取り組む子どもたちの姿から、理系に進んだ初心を思い出し、これからの研究に励む気力を貰いました。----- (工) 中島



* 実験内容は、安全性やコスト、所要時間等を含めて考えなければならず、想像していたよりも大変でした。イベント当日は、子どもだけでなく保護者の方も積極的に参加し、親子で一生懸命実験に取り組んでくださったのが印象に残っています。----- (工) 久間



参加者アンケート



子どもたちから

- 知らないことを知れてよかったです。とてもビックリしました。大学院生さんの話も知れて、やっていることが分かって良かったです。
- 色々先生方の話も聞けて実験のコーナーもあってとても楽しかったです。
- 実験というのは楽しいと思いました。家でもスライム、スーパーボールを使って遊んだりしたいと思います。
- たのしかった。たまねぎがこんなじつげんにつかえるなんて思えなかった。
- いろんなことがあったり、空気で動かしていてもおもしろいと思いました。
- 私は、実験をして、どうしてそうなるのか、知りたいから、今日、実験も、その理由も分かってうれしかった。



保護者から

- 身近なもので全く別の身近なものができる発見・気付きが子どもの関心、興味を高めるいい機会になりました。
- 生活になじみのある物で、理科の不思議な面白い体験をさせて頂いてありがとうございました。科学の世界は難しく感じてしまいましたが、子どもに興味深い体験は、貴重で、大変楽しく思っています。
- こういった子どもと楽しく遊び、学べる企画があれば、又参加したいです。
- 今回とても興味あるテーマで説明も分かりやすく親子でとても楽しむことができました。ありがとうございました。

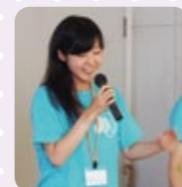
それぞれの道 - IRISからメッセージ -



工学研究科
 物質・化学系専攻 化学工学分野
 博士後期課程2年
高田 瑤子

私は、「科学実験が好き」「白衣を着て実験がしたい」という非常に単純な思いから理系を選択しました。教科書を読むだけでなく、実際に自分で手を動かして考えることから好きでした。また、教科書に書いてある現象が本当に起こるのか、なぜ起こるのか等、科学に対して不思議に思うことが多かったように思います。そのため、IRISの活動のひとつである子どもサイエンス・キャンパスは、私にとって非常に貴重な経験となっています。大学・大学院に進学すると、それぞれの専門分野の知識を深めていくことになり、それ以外の分野を学ぶ機会は減ってしまいます。しかし、イベントの実験内容は、メンバー個々の専門分野を活かした内容で発案・企画を行っているため、新たな発見や幅広い分野の知識を得ることが出来ます。また、科学に興味を持った理由のひとつに、理科の教師をしていた父の影響もありました。子どもの頃、日常生活で不思議に思ったことは何でも父に聞き、父は私が理解できるまで丁寧に教えてくれました。身近な現象が科学と結びついていることを知り、科学の面白さに興味を持つきっかけになったと思っています。決して大きな志を抱いていたわけでも、壮大な夢を描いていたわけでもなく、ちょっとしたきっかけから私は理系という道を志しました。

これから理系を目指す皆さんには、自分自身の可能性を広げるためにも、様々な経験や人との出会い、環境を大切にしてほしいと思います。



生命環境科学研究科
 緑地環境科学専攻 緑地環境科学分野
 博士後期課程3年
徳田 綾也子

理系に進むことを決めたのは高校受験の時でした。地元の公立高校に理系向け学科があったのです。数学や理科は得意とは言えませんが「好き」で、受験科目が少なく、試験結果が早く出るというのも魅力でした。栄養学などの家政系の理系分野に進むつもりでしたが、高校化学や物理が面白く、理学と家政の中間に位置するように思えた農学(現・生命環境科学域)への進学を決めました。理系領域はまだまだ女性が少なく苦労もありますし、周りから理解を得にくいことも事実です。しかし、勉強や研究が「好き」であるのなら進んでみるのも一興だと思っています。私は、中高生のころ管理栄養士になることを目指していただけあり、食べることが好きで、食べることに植物の栽培に携われることを嬉しく思っています。どのような進路を選ぶにしてもその時々の時々に自分と向き合えばどんな結果になってもきっと後悔はないと思います。悩むこともあると思いますが頑張ってください。



生命環境科学研究科
 応用生命科学専攻 応用生命科学分野
 博士後期課程2年
堀内 寛子

私は高校で文理選択をするときに、資格が取れる薬学部に行きたいと思って理系を選択しました。大学受験では第一志望の薬学部は不合格でしたが、「学問を通じて人の健康と生活に貢献する」という意味では、在籍している生命環境科学部でよかったと思っています。現在は、食品由来成分の生活習慣病予防効果についての研究を行っています。研究は答えの見えない問いばかりが続きますが、身近な食べ物が私たちの身体に引き起こすミクロな現象を解き明かす楽しさがあります。直近の目標としては博士号を取得し、将来は、企業で科学と科学を必要とする社会や集団を結びつける仕事をしたいと考えています。

IRISには第2期から参加し、理系女子の裾野拡大を目標に、様々なイベントに携わってきました。昨年度の大学コンソーシアム大阪の「若者のためのライフデザイン支援事業」では、自分たちが提案した企画を事業として形にする貴重な経験をさせて頂き、さらに、自らのライフプランをより深く考える機会になりました。私たちIRISは同じ理系として共感し合える部分は多い反面、分野も違えば興味やもの見方も十人十色であり、「理系女子」という「括り」は飾りにしかすぎないと私は思っています。「理系女子」はまだまだ多くはなく、進みたい道を「女子だから」と躊躇う小中高生を応援したい気持ちには変わりはありませんが、どうか「リケジョ」を目指す小中高生と、その周りの大人の方々には、「括り」の言葉に惑わされない理系の魅力を追い求めてほしいと願っています。



理学系研究科
 生物科学専攻 細胞組織工学分野
 博士後期課程2年
西川 麻裕

苦手と思い込んでいることでも先入観を取り払って、自分の目で見て考えてやってみると、実は向いていること、楽しいことがたくさんあると思います。私は幼い頃から動物が大好きでしたが、理系の勉強はそれほど得意ではなく、理科の実験もあまり好きではありませんでした。それが大学で自ら手を動かして研究を進めるうちに「なぜ」を考えることの楽しさを知り、さらに先輩が興味のまま研究に取り組んでいる姿が羨ましく、研究者の道を考えてようになりました。IRISでは子どもサイエンス・キャンパスなどを通して幼稚園児から高校生まで多くの人と交流してきましたが、子どもたちの柔軟な発想や好奇心の強さにはいつも驚かされました。目を輝かせて素朴な疑問を投げ掛けてくる子どもたちに接すると、知りたいと思う気持ちが研究の原動力であることを再認識します。「分からないことの先にはきっと何かがある」と、わくわくする気持ちを大切にしつつ、科学の面白さや魅力を広く伝える橋渡しができる研究者でありたいと思っています。

出会いや偶然はあらゆるところに存在します。それに気付いて掴み取れるかどうかは、きっと心と身体の準備次第です。ぜひ「偶然」を拾い上げられる人になってください。好きなことだけに偏らず、普通だと思っている何気ないことにもきっかけがあることを意識すると、毎日がもっと楽しくなると思います。

